



世田谷区立砧中学校 校長室より
令和4年 7月 4日
第 20 号
校長 大坂 崇

教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
社会性の学び	知的な学び	心と体の学び
自他の尊重 地域貢献	主体的な学び 学習の定着	心身の健康

PIAAC

OECDによる国際成人力調査

OECDと言えば、PISA（学習到達度調査）が有名ですが、成人を対象とする学力調査も10年ごとに実施しています。（OECD加盟の24の国と地域の16～65歳を調査）

「国際成人力調査（PIAAC：Programme for the International Assessment of Adult Competence）」です。

1 調査内容

① 読解力 (Literacy)

社会に参加し、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させるために、書かれたテキストを理解し、評価し、利用し、これに取り組む能力

② 数的思考力 (Numeracy)

成人の生活において、さまざまな状況の下での数学的な必要性に関わり、対処していくために数学的な情報や概念にアクセスし、利用し、解釈し、伝達する能力

③ ITを活用した問題解決能力 (Problem solving in technology-rich environments)

情報を獲得・評価し、他者とコミュニケーションをし、実際的なタスクを遂行するために、デジタル技術、コミュニケーションツール及びネットワークを活用する能力

2 結果

	読解力	数的思考力	ITを活用した問題解決能力	
	平均得点	平均得点	レベル2・3*1の割合	平均得点
OECD平均	273	269	34%	283
日本	296 (1位)	288 (1位)	*235% (10位)	*3294 (1位)

*注 1 レベル3:高スキル レベル2:中スキル レベル1:低スキル レベル1以下 に分類

2 ITのスキルが無い等で、紙で調査を受けた者を含む [紙受験者: 日本 36.8%, OECD 24.4%]

3 ITを用いて回答した者のみの集計

3 年齢分布別にみると



この結果から、今の中学生に、将来必要な力を、どう分析しますか。

なお、今年、2回目の調査が行われます。その結果は2023年公表されます。

4 総括

- ① 日本の成人の読解力・数的思考力・ITを活用した問題解決能力は「世界トップクラス」
- ② でも、日本でITの活用能力のない人の割合は、OECDの平均よりかなり低い
- ③ 日本は世界トップレベルの成人力だが、「読解力」の不十分な人(品物の解説書を読めないレベル)が約3割いる。(OECD全体では4割)
⇒ 普通の説明が理解できない人が、3割いる
⇒ 教科書の理解できない生徒が3割いる